平成２８年度

事業計画書

平成２８年４月１日より平成２９年３月３１日まで

公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

平成２８年度事業計画策定にあたって

1981 年（昭和 56 年）の国際障害者年を契機に翌年８月に設立された当基金も、設立より 34 年目を迎えます。

設立当時より、永年の月日を経てきた今も当基金が目指してきたことは、障害の有無に関わらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し支えあう「共生社会」の実現であり、様々な視点で障害のある人たちへの課題を考える機会をつくることを目的とした事業への取り組みを、引き続き展開していきたいと考えております。

ふれあいの広場事業は、当基金が設立以来、取り組んでいる事業です。スポーツや音楽等を通じて、障害のあるなしに関わらず共に参加し楽しむことのできるプログラムを創造し、開催してまいりました。

「ふれあいのスポーツ広場」は、平成２７年度は過去最高に並ぶ全国３８会場の開催となり、初めて鳥取県において実施いたしました。これも自動車総連各組織のご協力のお蔭と感謝しております。今年度も、３８会場の開催を目指すとともに、さらに活動の輪を広げていくべく努力して参ります。プログラムの一部見直しやＰＲ活動も進め開催してまいります。

「発達障害児と家族のためのウインターキャンプ」は、その主旨の浸透度が参加家族にも年々高まり、たいへん多くのご家族に参加申し込みをいただいております。日産労連、明星大学星山ゼミのみなさまのご協力をいただきながら、新たに御殿場市内のＮＰＯ、高等学校との協働も始めることができました。引き続き当初の目的に沿った当基金の主要事業として実施してまいります。

ユニバーサルスポーツのプログラム開発ワークショップは、東日本大震災の被災県である、福島、宮城での開催を積み重ね、障害の有無に関わらず楽しむことのできるユニバーサルなスポーツ競技の開発のため、同志社大学スポーツ健康科学部藤田ゼミ、仙台大学障害者スポーツサポート研究部 Co-Act. 日本福祉大学のみなさんに検討いただきました。今年度については、福島県において実施し、連携の輪を広げて参ります。

ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップは、平成 27 年度に本格的に取組をはじめ、北海道及び福島県内において、多くの子どもたちに参加をいただき開催いたしました。今年度も福島県内において開催し、言葉を超えたコミュニケーションの手法を知っていただけるよう、努力して参ります。

低金利に加え、厳しい経済状況の中ではありますが、多くの皆様のご理解とご支援のもと本年度事業が展開できますよう、ご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

平成２８年４月
公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

１．ふれあいの広場事業

（１）ふれあいのスポーツ広場の実施

障害のあるなしに関わらず、軽スポーツを通じ、共に楽しみ、交流することを目的とし、当基金設立時より実施している事業です。

平成４年度以降は「全日本自動車産業労働組合総連合会（自動車総連）」より物心両面にわたるご支援をいただきながら、全国的に展開しております。昨年度には開催地域も全国３８会場までに拡大し、初めて鳥取県において開催することができました。

障害の種別や程度でなるべく影響の少ないプログラムとして、ユニバーサルスポーツをキーワードに、各種スポーツ団体や障害者スポーツの研究者との検討により、多くのプログラムを創造し、実施しております。

現在、同志社大学スポーツ健康科学部の藤田紀昭教授を中心とする大学生のみなさんに、独自のユニバーサル・スポーツプログラムを提供いただき、実施すると共に、公益社団法人日本エアロビック連盟、日本障害者フライングディスク連盟、仙台大学障害者スポーツサポート研究部 Co-Act. のみなさまに、ユニバーサルなプログラムを提供いただいております。

多くの関係者、ボランティアの皆様に支えられ、今年度においては下記の都道府県において開催を計画しております。

実施時期　平成２８年４月～平成２９年３月
開催地域　北海道、青森、岩手、秋田、宮城、福島、栃木、群馬、茨城、埼玉、千葉、東京、神奈川、富山、石川、長野、岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、和歌山、鳥取、島根、岡山、広島、山口、香川、愛媛、福岡、佐賀、熊本、大分、宮崎、沖縄
開 催 数　全国３８会場（予定）
共　　催　全日本自動車産業労働組合総連合会
後　　援　内閣府、開催都市、開催都市教育委員会等
協力団体　公益社団法人日本エアロビック連盟
日本障害者フライングディスク連盟
大学障害者体育スポーツ研究会（同志社大学）
仙台大学障害者スポーツサポート研究部 Co-Act.

風船バレー／２７年度和歌山大会

プログラム内容

同志社大学スポーツ健康科学部教授　藤田紀昭先生の監修の元、障害の有無に関わらず、誰もが共に参加し楽しむことのできる競技として、開発された競技を中心に実施しています。午後には、エアロビック、フライングディスクなど、ユニバーサルな競技活動を行っている障害のある方に関わるスポーツ団体や、同志社大学、仙台大学の学生のみなさんが、それぞれに考案したユニバーサルな競技を実施し、楽しんでいただいております。

競技内容（例）

☆ロープ送り

２列縦隊で座った列の先頭から、最後尾に向かってロープを送っていき、最後尾でＵターンして最前列へ。ロープの最後が最前列の競技者にわたったら、ばちと交換。太鼓を打ち鳴らす競技。

ロープ送り／２７年度防府大会

☆風船バレー

２チームに分かれ人の列で区切りを作る「人間ネット」を中心線とします。各チーム３０～５０個の風船を持ちスタート。自陣から風船の個数を減らしたチームが勝ち。

☆みんなでストレッチ

運動不足になりがちな施設職員、利用者を対象に、施設でも行えるよう、藤田先生が考案したストレッチ運動。

みんなでストレッチ／２７年度高王大会

☆じゃんけんダンス

リズミカルな音楽に乗せ、二人一組で行うダンス。最後には二重円をつくり、じゃんけんにて洗濯ばさみを取り合うゲームを行う。

☆ジャンボールリレー

大きな軽いボールを四人一組でネットを利用してリレー。仙台大学障害者スポーツサポート研究部 CO-Act. 考案。

ジャンボールリレー／２７年度大分大会

☆巨大オセロ

床面に紅白二面のディスクを置き、自軍の色に替えていき、多い方が勝ち。仙台大学障害者スポーツサポート研究部 CO-Act. 考案。

巨大オセロ／２７年度高崎大会

（２）発達障害児と家族のためのウインターキャンプ２０１６の実施

発達障害児の療育と、その家族のレスパイト及び交流を目的として、ユニバーサル音楽ワークショップの実績を生かし、そのプログラムを折り込みながら、キャンプを通じた様々なプログラムを実施いたします。

運営は、ボランティアへの参画と意識の向上を目的として、ボランティアによる実行委員会を組織し実施いたします。

共　　催：日産労連、
　　ＮＰＯ法人日産労連ＮＰＯセンター「ゆうらいふ21」、
　　明星大学星山ゼミ、
協　　力：ＮＰＯ法人土に還る木森づくりの会
　　ＮＰＯ法人自立支援センター歩歩路
実施主体：ウインターキャンプ２０１７実行委員会
実施時期：平成２９年２月１８日～１９日の１泊２日
会　　場：ゆうらいふ御殿場（静岡県御殿場市）
対 象 者：発達障害のある子どもとご家族
定　　員：３０家族　１００名程度
実行委員：９０名程度
参 加 費：【バス利用の場合】一般 7,500 円 小学生以下 3,500 円
　　【現地集合の場合】一般 5,000 円 小学生以下 2,500 円

プログラム：

２月１８日（土）

10:00	出発～バスにて御殿場へ
12:00	ゆうらいふ御殿場到着
13:00	開会式
13:15	家族プログラム
15:00	個別プログラム 子どもと大人それぞれに
18:15	夕食
19:30	夜のプログラム おとな懇談会

２月１９日（日）

07:45	朝の活動
08:00	朝食
09:00	グループプログラム
10:30	家族のプログラム
12:00	昼食
13:30	閉会式
14:00	ゆうらいふ御殿場出発
16:00	到着後解散

（３）ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップの実施

障害の有無に関わらず、お互いが尊重し合えるためのコミュニケーションのあり方について学ぶ場として、ノンバーバル（非言語）によるコミュニケーションについて学ぶ場づくりをいたします。平成２７年度には、これまでの取組を生かし、福島県内の特別支援学校の子どもたちを対象として実施いたしました。引き続き、福島県内の特別支援学校を中心とした子どもたちに体験いただきながら、指導者に対して理解を広げる活動を行って参ります。

実施時期：平成２８年９月
対　象　者：特別支援学校の子どもたち、教職員、ボランティア等
ファシリテーター：
　庄﨑　隆志
　（office 風の器主宰・俳優・演出家）
　メイミ
　（漫談家・介護福祉士・NPO 法人笑顔工場理事長・港区登録手話通訳者）

２．開発、普及及び育成事業

（１）ユニバーサルスポーツのプログラム開発ワークショップの実施

当基金が設立以来、実施を重ね開催規模を広げている「ナイスハート･ふれあいのスポーツ広場」事業では、多くの障害者スポーツに関わる指導者の助言や協力のもと、従来にない新たな競技を開発し、プログラムとして提供してまいりました。同志社大学スポーツ健康科学部教授である藤田紀昭先生が、学生のみなさんと協議を重ね開発してきたプログラムです。平成２３年度からは、仙台大学障害者スポーツサポート研究部「Co-Act」のみなさんも競技開発に加わり、プログラムの内容も充実して参りました。

過去３年にわたり、ユニバーサルなスポーツ競技の新たなプログラムを開発することを目的として、東日本大震災の被災地である、福島県、宮城県内及び昨年度は日本福祉大学の皆様にもご協力を頂き、愛知県内においてワークショップを行い、屋外活動が制限されている地域において、室内で楽しむことのできる競技開発をテーマに開催いたしました。今年度は、2回目となる福島県内において実施し、障害のある子どもとそのご家族を対象として、スポーツを楽しむことのできるプログラムづくりをテーマに開催いたします。

実施時期：平成２８年８月３１日（水）～９月２日（金）の３日間
会　　場：福島県立大笹生養護学校、福島県伊達郡桑折町内
対 象 者：教育・福祉・体育の専門職員及びその学習をしている学生等
講　　師：藤田　紀昭（同志社大学スポーツ健康科学部教授）
　　佐藤　一樹（仙台大学障害者スポーツサポート研究部　Co-Act.）

（２）各事業報告書の発行

障害のあるなしに関わらず、共に楽しむことのできる手法で、様々な事業展開をしている中で、その考え方や手法を、多くの方に知っていただき、様々な活動の中で取り組んでいただけるよう、報告書として整理し配布いたします。

刊行時期：平成２９年３月
発行部数：当基金ホームページにおいても掲示。無償配布。

（３）ニュースレターの発行

当基金が設立以来、事業活動の基礎とし周知に務めている障害のあるなしに関わらず共に楽しみ、取組ながら相互理解を深めていくための「ふれあいの広場」事業を、その理念や活動内容、プログラムの手法などの情報を掲載した機関紙「ないすはあと」を年４回発行し、多くの方々にこの活動の理念を知っていただくため、内容の充実に努めていきます。

発 行 月：６月、９月、１２月、３月
発 行 数:各２，０００部。当基金ホームページにおいても掲示。無償配布。
内　　容：ふれあいの広場事業に関わるプログラム内容、手法、実施の状況等

３．調査研究事業

（１）ユニバーサルスポーツプログラム研究会の実施

新たな取組として、「ふれあいのスポーツ広場」で実施している、ユニバーサルなスポーツプログラムをより深化させ、同様な取組を行っている様々な立場の指導者の相互研究の場として研究会を組織化し、プログラムづくりと指導者交流の場として位置づけます。

研究会での調査・討議内容は、報告書として刊行し、広く周知すると共に、理解者を広げ障害のあるなしに関わらず共に取組ことのできるプログラムの裾野を広げてまいります。

座　　長：藤田　紀昭（同志社大学スポーツ健康科学部教授）
構 成 員：障害者スポーツ等の指導者、福祉関係者等
内　　容：障害のあるなしに関わらず共に取り組むことのできるスポーツプログラムの先行事例の調査と新規プログラムの創造
報 告 書：当基金ホームページにおいても掲示。無償配布。

（２）ユニバーサル音楽ワークショップ研究会の実施

「ユニバーサル音楽ワークショップ」で生まれた課題や、新たな手法を研究し、ワークショップという手法の有効性を確認しながら、新たなプログラムの枠組みを検討していくために、研究会を組織し、専門家を交えて検討してまいります。

研究会での調査・討議内容は、報告書として刊行し、広く周知すると共に、理解者を広げ障害のあるなしに関わらず共に取組ことのできるプログラムの裾野を広げてまいります。

座　　長：星山　麻木（明星大学教育学部教授）
構 成 員：教職員、学校教育、社会教育等の指導者、福祉関係者等
開 催 数：年３回程度
内　　容：障害のあるなしに関わらず共に取り組むことのできる音楽ワークショッププログラムの先行事例の調査と新規プログラムの創造
報 告 書：当基金ホームページにおいても掲示。無償配布。